LUNA SEAと歩いた25年

今年 結成35周年のメモリアルイヤーを迎えるロックバンド LUNA SEA。演奏力の高さとフォロワーの多さによりリビング レジェンドになっています。私も 1998年にLUNA SEAの音楽を初めて聞いてからずっとその動向を追い続けています。今回は彼らの簡単な軌跡と私の思い出を綴りたいと思います。

LUNA SEAは1989年、町田プレイハウス というライブハウスにて初のライブを行い、結成されたバンドです。メンバーは RYUICHIさん、SUGIZOさん、INORANさん、Jさん、真矢さんからなり、現在まで メンバー 交代はなされていません。この5 人でないと起こせない ケミストリーがあるのでしょう。

ＸのHIDEさんにその天賦の才能を認められ、YOSHIKIさん率いるエクスタシー・レコードに加入。インディーズ アルバム「LUNA SEA」を1991年にリリースし、このアルバムはファンの間で起爆剤となりました。ライブを中心に インディーズバンドの中で特筆した存在になり、ファンを増やしていきました。

1992年、アルバム「IMAGE」でメジャーデビュー。そのビジュアルと独特な音楽 性により 注目を集めました。1993年、アルバム「EDEN」をリリースし、初のシングル「BELIEVE」をリリースします。アングラなイメージと異なり、ポップで口ずさみやすいメロディーのコントラストが印象的です。このアルバムをリリースした後、メンバーのJさんはうつ状態になってしまい、一時期 ホームレスのような生活もしていました。

1994年、そのうつ状態を払拭したシングル「ROSIER」がスマッシュヒットします。その続編の「TRUE BLUE」は初めてとなるオリコン1位を獲得しました。アルバム「MOTHER」もオリコン2位に輝き、その独自の世界観を背景に、人気アーティストの仲間入りを果たします。

1995年、全国ツアーと 年末に久しぶりとなるシングル「DESIER」をリリース。そして 12月23日に初の東京ドーム講演を果たします。このとき、東京ドームの動員数をぬりかえる記録を達成しました。

1996年、アルバム「STYLE」をひっさげて全国ツアーを行います。このアルバムはそれまでと打って変わった バリエーションに富んだ音楽性を披露しており、LUNA SEAは解散するんじゃないか？ そう噂されました。12月23日、横浜スタジアム公演「真冬の野外」で 1 年間の活動休止とソロワークスのスタートを発表しました。
1997年、私は とある音楽番組で 河村隆一という アーティストを目にしました。彼に惹かれた小学生の私は音楽にのめり込みました。同じ年にお笑い芸人のポケットビスケッツ や猿岩石の CD をよく聞いていたのですが、アーティスト を本業とする人の音楽を聞いたのは 河村隆一さんが初めてでした。

同じ年の秋に音楽番組で今田耕司 さんが「河村隆一さんはバンドに戻るんですよね」と語り、何のことを言ってるのかさっぱり分かりませんでした。他のメンバーも 皆 ソロ活動を行っていたのです。しかし 12月にLUNA SEAはシングルベストをリリース（このアルバムはミリオン・セラーを記録）し、翌年のバンド活動再開を宣言します。

1998年、シングル「STORM」で堂々の活動再開を果たします。続く「SHINE」、「I for You」もヒットし、チャートを賑わす大人気バンド に成長しました。アルバム「SHINE」と全国ツアー、年末の東京ドーム公演により、不動の人気を保持します。

1999年、ライブ参加人数制限なしの大型 ライブ「CAPACITY∞」を敢行します。しかし ハプニングが起きてしまいます。連日の強風により ステージが崩壊してしまったのです。これまでも LUNA SEAはライブのために台風が襲ったり、何十年に 1度の大雪だったり、アイルランドでも奇跡の雪を降らしたりと、嵐を呼ぶ バンドとして君臨していました。今回はさすがに ライブは不可能だと思われましたが メンバーの強い意志により 倒壊したステージをオブジェに見立ててライブを敢行しました。結果、当時の日本記録である 10万人を超える観客を集め 不完全ながらもライブは成功しました。

それからは レコーディング期間に入り、2000年、「gravity」、「TONIGHT」という シングルをリリースし、アルバム「LUNACY」も好調でした。しかし 当時は メンバーの仲は最悪だったといい、顔を合わせるのも嫌だったと振り返っています。冬にシングル「LOVE SONG」をリリースし、バンドの解散を発表します。全国ツアーは一挙にさよならツアーとなってしまい、私も当時のスポーツ新聞に一面に乗った「LUNA SEA 電撃 解散」という言葉には衝撃を受けて今でも覚えています。解散は 終幕という名で語られます。

同年の12月23日に ベストアルバムをリリースし こちらは 20世紀 最後のアルバムオリコンチャート 1位に輝いています。そして 年末の東京ドーム公演によりバンドは本当に終幕しました。

その後 高校生になった私は 自身でバンドを組み ドラムやベースを担当しました。LUNA SEAが好きな友人と 夜遅くまで語り合ったものでした。当時はゴイステやシャカラビッツなどの新たなバンドブームでした。が、LUNA SEAは私の中でも特別な存在でした。

2005年 広島大学へ入学した私は仲のいい友人にLUNA SEAの音楽を聞かせて 実際に アルバムを貸したりしていました。2007年突然 ファンクラブのサイトに謎のカウントダウンが始まります。様々な憶測の中 カウントダウンのラストの日の満月の日に、LUNA SEAクリスマスイブに 1日だけの復活が発表されました。この東京ドーム公演は 5分でチケットが売り切れたそうです。私も 朝のニュース番組で久しぶりのLUNA SEAの姿を拝見しました。

2010年、大学から香川へ帰ってきた 私に吉報が訪れます。LUNA SEAが「REBOOT」という名で復活を果たしたのです。20分に及ぶ 大曲である「The One」や続いてシングルをリリースし、ライブも順調に行っていきました。

2013年、十数年ぶりとなるアルバム「a WILL」をリリース。LUNA SEAの復活は同窓会のようなものではなく、あくまで現役で進化し続けることを私はこのアルバムで実感しました。数々の名曲が収録されていて、私個人的にもかなり好きなアルバムです。

その後もライブや音楽のリリースにより音楽会を牽引し続けています。2017年の賛否両論のアルバム「LUV」、初のプロデューサーを迎えた 2019年のアルバム「CROSS」、2023年の再現 ツアーに引っ掛けた 再収録アルバム「MOTHER」、「STYLE」と活動はやみません。

途中 RYUICHIさんの手術や新型コロナ禍を乗り越え、今年2024年、過去最大規模の全国ツアーを行うことが発表されています。本当に久しぶりの 私の地元の香川県でのライブを発表されました。なんとかチケットを入手してLUNA SEAさんに会いに行きたい、そう思っています。

これからも私の心に輝きを灯してくれるであろう、LUNA SEAの活躍に期待します。どうかお体には気をつけて これからも 月の満ち欠けと海の動きが呼応するように、私達に感動を与えてください。

参考文献
グループDe’ ja’ vu（1998）『LUNA SEA「大」事典』飛天出版